

アンケート集計結果（暫定集計 回答者 26 人）

問1 文京区新たな公共プロジェクト（文京ソーシャルイノベーション・プラットフォーム（以下、本事業））は、あなたにとって、どのような意味がありましたか？（いくつでも）

項目	%（人）
1. 文京区のことをよく知ることができた	72.0%（18）
2. 文京区の知人が増えた。	56.0%（14）
3. 対話や交流に参加できた。	52.0%（13）
4. 新しい考え方を知ることができた。	40.0%（10）
5. 地域活動に参加するきっかけになった。	44.0%（11）
6. 新しいことを始めるきっかけになった	48.0%（12）
7. 活動する仲間ができた。	20.0%（5）
8. 活動を広げる機会になった。	36.0%（9）
9. その他	12.0%（3）
10. 自分にとって意味はなかった。	0.0%（0）

■その他の回答例

- ・消費者として、新しいサービスを知り、利用することができた。
- ・まちづくりという自分の仕事を見直すいい契機となりました。
- ・そもそも「社会起業」というものがどういうものなのかもわからなかったので、この講座に参加することで学べたことは多かった。また、他業種交流会など、文京区が推進している多くの事業を知るきっかけにもなり、参加することもでき、とても有意義でした。
- ・地域コミュニティの可能性やファシリテーションを知ることができて、感謝しています。

問2 本事業の対話、講座、イベントなどで理解したり学んだこと、出会った人、始まったことなどで、印象に残っていることがありましたら、具体的にご記入ください。

- ・プレゼンテーションを聞いて子育て kitchen の存在を知り利用することで、子供の記憶に残せるような経験ができた。
- ・文京区青少年プラザは、素敵な取り組みだと思っています。似たような企画は、あちこちで提案してきましたが、実際に形になっているのを見ると、ちょっとジェラシーくらいですね。
- ・異なる立場・視点から私の取り組みに対する意見を頂き大変参考になった。
- ・街 ing 本郷についての話が参考になりました。
- ・違うジャンルの活動をしている方とも話をする機会が持てたので、いい経験でした。
- ・東洋大学の学生が地域コミュニティに積極的に参加され、文化活動している点に感心しました。
- ・他の講座やイベントに参加することが多く、その体験に照らして、未熟な集まりと感じました。
- ・まだ行動を起していない人もいるけど、実際に活動している人が沢山いることにも驚きました。
- ・多くの方が話していた、視点の持ち方を意識するようになりました。
- ・地域のことをいろいろ考えている人たちがいることを知りました。
- ・講座への参加を通じて、自分の思いつかない考えやアイデアを言ってもらえたことが（自分にとって）斬新だった。また、講座を通じて、多くの方が事業や活動を行っていることを知ったことも、いい意味で驚いた。
- ・引っ越したばかりで、地域の知人もほとんどなかったので、文京区の活動の一端を知ることができました。また、講座で知り合った人との交流が続いています。
- ・広石さんを始め、井上英之さん、岡本拓也さん、鈴木信行さん、今村さん、磯井さん、影山さん等、ソーシャルの世界で活躍されている方々のお話を聞くことで、新たな発見ができ、また自分の活動の幅が広がりました。
- ・世代を超えて未来や地域のことについて話すことができる人ができた。悩んだり涙したり、笑いあう仲間ができたこと。
- ・文京区には、様々な背景をもつ多才な方がいっぱいいること。
- ・キックオフ前に広石さんに「やりたいことを明確化し、外部に発信していくことが大事」とお話しいただき、自分たちのやっているつもりで終わらせずに、外部への発信というのはとても大事だなと改めて学びました。
- ・エンパブリックという組織が根津で地域に根ざした活動をしようとしていることを知ることができ、それが最も良かった点である。理想を現実にしようという活動方針に賛同できた。
- ・会に参加するごとに、既に文京区で活動している人たちから声をかけられて交流が始まるのが面白いと思いました。
- ・人間関係のまとめ

問3 現在、文京区内の地域活動、文京区で行われる事業やNPO活動（※）に携わっていますか？

※文京区で行われる事業・NPO活動とは、文京区に拠点を置いた、もしくは文京区民を対象にした事業を行っている場合を指します。

項目	% (人)
1. 自分で立ち上げた活動・事業がある。	44.0% (11)
2. 活動・事業に主催者側（役員、スタッフ、ボランティア）として参加している。	20.0% (5)
3. 活動・事業に参加している。	8.0% (2)
4. 関わりはない。	28.0% (7)

問3-1 （問3で1～3と回答した方へ） 活動・事業の内容を具体的にご記入ください。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学医学部における医学生教育 ・ 根津のまちづくり勉強会 ・ 子育て家族が繋がる場所としてのコミュニティスペース「千石こじゃり」 ・ みんなでつくって食べる会「おたがいさま食堂せんごく」 ・ 文京区の生涯学習司として特別公開講座・講座・シネマサロンの提案・企画・ボランティア活動しています。 ・ 文京区内のコワーキングスペースにて、読書会や勉強会を開催しています。オープンで開催しています。しかし、文京区内からの参加は減多にありません。このため、「関わりはない」を選択しています。その一方で、文京区内には、文化的な出会いの場がない、という前提で事業をなされている事実、違和感を覚えています。 ・ 母親支援（子育てkitchen） ・ NPO 法人 ArrowArrow ・ 介護事業（ケアマネージャー事務所） ・ 子供の脳を鍛える活動 ・ 街 ing 本郷の文人郷イベント、CANVAS のワークショップなど ・ 日本の伝統文化の一つである囲碁をツールとして、 <ul style="list-style-type: none"> ① 青少年の健全な育成 ② 高齢者の認知症予防 ③ 国際交流 ④ 世代を超えたコミュニケーション ⑤ 地域活動・ボランティア活動での生きがい共有

- ・エシェル。働いていない子育て中のママが「いつか何かしたい」と思ったときに踏み出す一歩を身近に感じられるようなきっかけになる「自分」として主体的に参加するワークショップの運営など。
- ・キュリオシティのマジプロ、街 ing 本郷の一つ屋根の下プロジェクト
- ・市民研の理事として、市民研へ資金面での支援(寄付)を今年度は行った。
- ・子育て世代の防災意識を高め、東京全体へ波及させていく活動
- ・リサイクルのお手伝いなど
- ・夜9時迄の子育て支援 親子日曜空手倶楽部

問3-2 (問3で1~3と回答した方へ) 本事業が、それらの活動・事業を立ち上げる・知る・参加するきっかけと なったことがありましたら、ご記入ください。

- ・B-ぐる友の会(登録プロジェクト)
- ・教員・知人からの紹介(ALP受講生)
- ・いろいろな価値観の人と食卓を囲めればと思って、「おたがいさま食堂せんごく」を立ち上げました(ALP修了生)
- ・プロジェクト支援を受けられたこと(子育てkitachen)
- ・支援プロジェクトに選ばれたことにより、全くのゼロから区内での事業を始められた。現在、家庭の事情によりNYにおりますが、こちらでもスムーズに活動を再開できたのは、事業を通して学んだことが大きいと感じております。(ecelle)
- ・関連する事業を起こせないかと思ったが、あまりピンとこなかったです。
- ・文京区内に地縁ができたことで、活動場所を確保することができた。
(ALP修了生)
- ・自活動10年目を迎え、幼児から高齢者まで年間延2,000人以上を巻き込んで活動し、継続的に多くの賛同を得ているが、囲碁の効能への理解が得られない局面もあり、今年から独自の活動路線を追求する。(登録プロジェクト)
- ・自分たちの活動の将来展望を考える。文京区が区民に何を期待しているのかを知るため。
- ・やりたかったことがあっても、一人でできず、仲間も見つけれないと思っていた中、思いを同じくする仲間の出会える場があって嬉しかった。(ALP修了生)
- ・もともと理事だった。(既存NPO、登録プロジェクト)
- ・ミライ対話などでお話させて頂く機会を得たことで、区内で防災活動をしている人としてのフラグをつけて頂いたと思います。

問4 本事業のこれまでの取り組み、今後についてご意見、ご感想をご記入ください。

- ・起業志向、社会参加志向の高い方同士の交流という点では大変効果がある活動だと思えます。今後は、一般消費者（区民）に対しても、各団体が提供するサービス等を利用したり、参画を促進するようなプロモーション活動を期待します。
- ・現在の方向性でいいと思います。
- ・継続ですよね・・・結局。昔、フランスのラングドック・ド・ルシオンの開発責任者と会った時に「プロジェクト成功の秘訣は？」と聞いたら「成功するまで続けること」と言っていました。“活動のさらなる拡大”
- ・文の京としての取り組みは素晴らしいと思います。でも、区民の中に浸透しているかといえば首をかしげる気がします。活動家になってしまうのですね。あの人がやっている・・・。
- ・公共プロジェクトに参加した方を集めて定期的に話し合う機会があると良いと思います。
- ・これからの新しい行政と市民活動の協働事業の在り方として関心があります。
- ・NPO市民の会に興味がありました。
- ・本事業について知ったのは、去年の夏です。立教大学のソーシャルデザイン集中講座にて、成功事例として聞きました。参加申し込みは、昨年秋からです。文京区に住んでいますので、予定できる限り参画し、可能なら積極的に協力させて頂きたいと考えました。
- ・そして、豊富なりソースに恵まれていながら、取り組み方がもったいないと感じています。
- ・これが終わってしまうのはもったいない気がします。
- ・「支援」を受けた団体として、私たちの事業ターゲットが「文京区」に特化したものではなかったことと活動基盤が文京区でなかったため「地域性」を問われる本事業の枠組みでの事業展開が困難でした。また、「支援金」の使途に制限がある（特に既存スタッフの人件費として使用できない）のも事業を継続する上では困難でした。
- ・いろいろ話は聞かせていただいたが、実際に具体化して軌道に乗っている例があるのか疑問を持ちました。
- ・実際の起業している団体への支援だけでなく、起業を検討している人への支援講座があることで、ハードルが少し下がり、自分もやってみよう、という気になれたので、導入としての位置づけは良いものだと思う。座学だけでなく、実際に自分の考えを発表する場があることで、一人では滞りがちな活動を押ししてくれるのも、自分には合っていると思う。本公共プロジェクトを通じて、関心のある人が増えるだけでなく、その人たちのネットワークができることが、一番の良いポイントだと思う。今後は、今の事業構想をもう少し練り、事業化したと考えているため、公共事業プロジェクトを継続していただけるとありがたい。
- ・講義内で過去の成功事例が、毎回ほぼ特定されていたのがかなり気になった。また、最終発表での外部講演者の内容にもかなり疑問が残ったというのが、残念ですが正直な感想です。
- ・以前の文京区のNPO支援施策は遅れていると感じていましたが、新たな公共の取り組みは、

とても先進的で地域に根ざす NPO がしっかり育つ取り組みだと感じました。3 年間でこの取り組みを終わらせることなくしっかりと継続していただきたいと思います。

- ・目先の変化に焦点が充てられているようで、我々の活動とは接点が得られそうも無いように感じている。
- ・(居住地で) なにかを始めたい、と感じている人は意外に多いと思います。この事業が始まる時、私も刺激されポスターを見て参加を決めたのですが、その当時より 3 カ年の間に文京区での色々な方の活動が芽生え、花開いていると周りの方たちを見て感じています(直接この事業に参加しなかった方も含め)。この取り組みは区民の生活や想いを刺激し、区民同士のつながりをつくる大きな一歩になっていると思います。
- ・選考の上事業の支援を行っている今の取り組みも意義のあるものだと思いますが、助成されるがために連携のもとにスタートアップしていかなければならない制約も出てくると思います。この点は他の助成金と大きく異なるところで、それが刺激になるスタートアップを加速させることもあれば減速する可能性もあると感じました。(この過程がとても重要なことは理解した上で。そしてその制約の中でのやり取りが大きく勉強になることをわかった上で。)
- ・対話や事業計画ブラッシュアップなどは、たくさんの方が区内での活動をしやすくなる、連携しやすくなる、出会いの場になる、一步を踏み出すきっかけになる、区民が区との距離を縮められる、やる気スイッチを押されるなど、たくさんの方から話を聞くことがあります。是非、この取り組みが続いて大人の学びの場を提供いただけるといいなと思っております。
- ・ぜひ、継続いただきたい。
- ・地域への関心が高まったり、おもしろい取り組みが立ち上がったりすると思うので、今後も継続されるとよいと思います。
- ・助成金を NPO に提供するという取り組みは評価するが、助成金申請の際に、NPO 側(助成金を申請する側)に、「仮に助成金を取れなくても、申請したプロジェクトを遂行すること」との旨の宣誓をさせるのは、ナンセンス。色々な意味で、こういった態度で助成金を配布しようとしているのであれば、良いプロジェクトを発掘し、育てることはできないだろう。

問 5 本事業の成果や課題について、より詳しくご意見をお伺いするため、インタビュー調査や意見交換会の開催を予定しています。そのような取り組みに、ご協力、ご参加いただけますか？

項目	% (人)
1. インタビュー、意見交換会に協力してもよい。	48.0% (12)
2. メールでの問い合わせなら対応できる。	28.0% (7)
3. アンケート以外の協力は難しい。	20.0% (5)